

ロシア留学

<出発前>

私は8月28日から12月23日までの約4か月、ロシアのウラジオストク経済サービス大学(ブグエス)に留学してきました。今年のロシア留学組の人数はなんと18人。こんなに人数が多いのは大学が始まって以来、初めてのことだったそうです。

高校のころから一度は留学を経験してみたいと考えていた私ですが、こんな人数で留学に行くことになるとは全く予想していませんでした。

なんとなく留学に行ってみたいかも、というとてもアバウトな目標のまま大学生活を過ごしてきた私にとってロシア語は全く、話せるレベルに達してはいないし、かなりの人見知りを自負していたので本当に私が親元から離れて4か月もロシアという異国の地で生活ができるのかと不安で留学に行くを決めるのにはかなり時間を要しました。ですが現在、留学から帰ってきてロシアでの楽しかった4か月間を思い返すと、留学に行っただけで良かったと思います。

<ロシア入国>

ロシアに入国して欲しい1週間はあまりにも日本の生活と違いすぎて非常に苦労しました。ロシアの先生の言っていることは全く理解できず、トイレは紙を流せず、お湯は出ず、店の店員は怖く、たくさんのゴキブリと生活を共にし、体も心も、ぐったりでした。

こんな生活4か月も絶対無理だ、早く帰りたい…と思うことも多々ありました。

しかし、その苦痛の日々のおかげで私が日本で甘やかされて育ってきたこと、日本がとても恵まれていること、自身の常識の狭さに気づくことができました。

郷に入れば郷に従え。とりあえず1日1日を頑張ろう。そうこうしているうちに次第にロシアの生活にもだんだん順応していきました。

<寮での生活>

私たちが四か月間苦楽を共にする寮は丘の上にある建物の三階に位置しています。三階といっても丘の上なので窓からの景色は遠くの山まで見えてとても絶景でした。また、寮は大学に隣接していて行こうと思えば一切外に出ずに授業の教室に行けます。

留学メンバーはみんな同じ階で他の部屋の人たちはほとんどロシア人でした。留学メンバー同士はとても部屋が近かったのですが何か分からないことがあったり、暇なときはよく気軽

に部屋に入って話すことができ、まるで毎日が修学旅行のようなワクワク感がありました。

キッチンも階に一か所しかなかったので毎日みんなで夕飯の準備をして留学メンバーとは本当に仲良くなりました。しかし、ロシア語はあまり話さずとも生活ができたのでこのままではロシア語が上達しないんじゃないかと不安になることもありました。



<大学と授業>

ブグェスは極東連邦大学と比べると少し小さな大学ですがそれでも新潟国際情報大学より少し大きいぐらいの広さでした。

大学の中は迷路のようにたくさんの通路がありとても複雑なつくりをしていました。授業が始まってすぐはまだ道を覚えてなくてよく迷子になり授業に遅れてしまうということもありました。また大学の地下にはお土産屋、美容院、ネイルサロン、靴屋、文房具屋などの様々な店があり、寮から近いということもありとても便利でした。

大学の授業は少人数制で日本人は 3 つのグループに分かれてそこに中国人、韓国人、インドネシア人、フィリピン人などが入って大体どのグループも 13~15 人ぐらいで授業を行いました。生徒の歳はバラバラで 18 歳から 40 歳までと非常に幅が広がったです。

日本の大学の授業と違いかなり先生と生徒の距離が近く、先生と常にコミュニケーションをとりながら行うので授業が始まった当初はまだロシア人の流暢な発音が聞き取れずかなり苦労しました。しかし大体一か月くらいたつと、先生の言っていることもなんとなく分かる様になり、授業が急に楽しく感じられるようになりました。また一緒に授業を受ける中国人や韓国人の人たちとも最初は仲良くなれるか心配でしたが日本の漫画や日本語を多少知っている人がいたりしてすぐに仲良くなることができました。

授業科目は美術、音楽、ウラジオストクの地理、ロシアの歴史、リスニング、日常会話、テキスト朗読、スピーキングの全部で 8 科目です。クラスによって変わりますが大体一日 3 教科あって、朝 8 時 30 分に始まり一科目は 90 分、休憩 10 分で 1 時 30 分ほどでその日の授業は終了します。留学当初はまだ時間割に慣れなく、ロシアの朝は日が昇るのが

遅く朝が寒いということもあり、一限はみんなまだ眠い顔もしており3限頃になるといつも誰かのお腹を鳴らしていました。どの教科の先生も女性のロシア人で男の先生を大学ではほとんど見かけなかったのが印象に残りました。

私が最も好きだった授業は、スベトラーナ先生の担当する音楽です。ローシキーという木製のスプーンのような打楽器を使ってカチューシャなどのロシアの民話をみんなで歌います。私はあまり歌うのは得意ではありませんでしたが、12月の中旬あたりに歌の発表会があるということを知り、必死になって友人と寮で練習しました。

本番の発表会は極東連邦大学で行われ、私たちはロシアの民族衣装を着てとても緊張しながら歌ったのを覚えています。

授業の成績は前半50点、後半50点の計100点でつけられており、大きなテストが各教科1~2回ありました。去年までの留学先の極東連邦大学ではテストは全てマークシートだと聞いていましたが、ブグエス大学ではすべて筆記で先生によってテストの形式が全く違いました。文房具についてですがノートが日本に比べると質があまり良くないので日本からたくさん持っていくことをお勧めします。

辞書についてですが、配られたテキストもほとんどロシア語、たまに英語という感じだったので紙辞書だけでは授業の進行についていくのが大変です。留学に行く直前に買っていただいた電子辞書はかなり重宝しました。

<放課後、週末>

ブグエス大学では私たちのお世話をしてくれるスベトラーナ先生が私たち日本人のために毎週のように、ウラジオストクの町やお祭りごとへロシア人学生と一緒に連れて行ってくれました。観光とロシア人学生と仲良くなることができたのでとても楽しい時間でした。ただ前日の夜に明日は観光へ行くという連絡が来たりするので、急に自分たちの予定が変わったりしてそこはちょっと大変でした。

ウラジオストクには多くの観光地があります。私たちが行ったところだと水族館、博物館、映画館、劇場、教会、駅、広場などです。そのほとんどが町の中心部に位置していました。そして、町の中心部はどの建物も西洋風な街並みが大きくて広くてきれいな印象でした。町の中心部には大きな広場があり週末には広場一面に出店がならんでそこは市場と称します。はちみつやお菓子や野菜がとても安いのでおすすめです。

また、ウラジオストクの主な移動手段はバスです。私たちはほとんどの毎週に町の中心部で買い物や観光をしに行ったので18ルーブル均一の市内のバスはとても便利でした。ただ、バスに書いてある番号を確認して乗らないと全く知らない場所になってしまうので危険です。私も何度か間違えてバスに乗ってしまい迷子になりかけたことがあります。

また町の中心部はとてもきれいですが、日本のように安全だ、とは言い切れない場所です。わたし達にはありませんでしたが、他の留学生が町で財布を取られるという事件も留学中

にありました。



<留学先で困ったこと>

留学先で困ったことは多々ありますがやはり言語の壁が一番の問題でした。留学当初は会話というより知っている単語を言っているだけの状態でなかなか相手に伝わりませんでした。あらかじめ文章を作っておけば相手には多少伝わりますが、返しの相手の言葉が頭に入ってこないという感じでした。またロシア語の数字ももっと留学前に念入りに勉強しておけばよかったと後悔しています。日本の授業だと一通り喋れて聞き散れるレベルだと思っていましたがロシア人の発音はかなり早くしかも授業中はもちろん、買い物時や寮のカギをもらうときにも使うのでいやおうなしに体に叩き込まれました。そしてアクセントというのにもかなり苦労しました。ロシア語はアクセントがとても重要なので自分では文法も単語もあっていると思って話していてもロシア人には首を傾げられる、ということがよくありました。最初は恥ずかしがって淡々としゃべっていましたが、結構大きめにアクセントの部分を表現しないと相手には伝わりません。いかにリスニングとスピーキングが大事かを痛感しました。しかし、ロシア人とせっかく知り合えたのに、伝えたいことが伝わらないというもどかしさは、もっとロシア語を学ばなければいけな

い！というやる気に繋がってよかったと思います。

留学中は生活面の管理も自分でしなければなりません。上記した通りロシアの朝は早く、朝ご飯を抜かしていたり、適当に済ませしまうことがありました。また逆に夕飯は、あまり作るのに時間をかけすぎると、宿題をやる時間や睡眠時間が遅くなってしまうので、夕飯の料理に使う鍋やフライパンは早いもの勝ちになります。鍋でお米を炊くのもかなり時間を要してしまうので、鍋やフライパンは現地で自分用のものを買って炊飯ジャーは多少重量がかかっても日本から持ってきたほうがいいと思います。

実はロシアの夏は日本並みに暑く、一日外を出歩いただけでカネの日焼けの後がくっきりと残るほどでした。ですから夏服と冬服両方用意しなければならないのですが、ロシアの空港では荷物の超過手数料がガッツリ取られるので(一キロ越えて時点で9000円ほど)、教科書やお土産を入れる分持ってきた服は、かなり捨てることになります。ですからあまり気に入っている服は留学に持ってこないほうがいいかもしれません。

<留学を終えて>

四か月間、あっという間の留学生活でした。とても楽しかったです。本当に。肝を冷やす場面も多々ありましたが今となってはいい経験です。

留学を経て私が学んだことは、とりあえず何事にもチャレンジしてみること、常識はあまりあてにならないということ、ロシア人は明るく親しみやすい人が多いこと、です。

最後になりますが留学するにあたってこれまで私たちを支えてきてくれたすべての皆様にお礼申し上げます。

